

改組新 第4回 日展 金沢展



大樋年朗 《黒陶幾何文花器》
—日展 金沢展より—

《紫系威萬歳甲冑 前田光高所用》
—前田家 武の装いⅠより—

- 前田家 武の装いⅠ
- 加州刀と加賀象嵌鎧
- 前田家 武の装いⅡ
- 琳派
- ○△□ 幾何学のデザイン【近現代工芸】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 平成29年度の新収蔵品について
- 6月の行事予定・夏休み体験講座
- アラカルト ただいま展示中

第3～9展示室

改組新 第4回 日展 金沢展

主催／北國新聞社、公益社団法人日展、日展石川会

後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、一般財団法人石川県芸術文化協会、一般財団法人石川県美術文化協会、

NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、

ラジオこまつ、ラジオななほ、金沢ケーブルテレビネット

5月26日(土)～6月17日(日) 会期中無休

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

日展は明治四十年の文部省第一回美術展として発足以来、その時々々の改革を重ねながら、常にわが国美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、平成二十六年の組織改革から数えて四回目の展覧会となります。

東京の本展出品作の中から、文化勲章受章者、日本芸術院会員、日展理事、会員などの秀作と、特選(石川県関係では洋画で鍵主恭夫、本山二郎、工芸美術では木谷陽子)などの受賞作品を基本作品とし、これに石川県内在住、出身作家の作品を合わせ、三三八点を展示します。

◆主な出品作家(五十音順・敬称略)

〔日本画〕

岩倉寿、鈴木竹柏、土屋禮一、中村徹、福田千恵、

松崎十朗、古澤洋子、渡辺信喜、山崎隆夫

〔洋画〕

佐藤哲、寺坂公雄、中山忠彦、西田伸一、

西房浩二、根岸右司、藤森兼明、村田省蔵、

湯山俊久

〔彫刻〕

雨宮敬子、川崎普照、神戸峰男、錢亀賢治、

中村晋也、能島征二、橋本堅太郎、蛭田二郎、

村井良樹、山田朝彦、山本眞輔

〔工芸美術〕

浅蔵與成、伊藤裕司、今井政之、大樋年雄、

大樋年朗、奥田小由女、武腰敏昭、中井貞次、

服部峻昇、春山文典、森野泰明

〔書〕

新井光風、井茂圭洞、尾崎邑鶴、黒田賢一、

小山やす子、日比野光鳳、星弘道

◆作品解説日程

日程	AM(午前) 10:30～12:00	PM(午後) 2:00～3:30
5月28日(月)	〔工芸美術〕 山岸 大成 杉原外喜子	〔日本画〕 土農 俊力
5月30日(水)	〔洋画〕 曾我 章	〔彫刻〕 江藤 望
6月1日(金)	〔工芸美術〕 百貫 俊夫 武腰 一憲	〔書〕 堀井 聖水
6月2日(土)	〔日本画〕 松崎 十朗 戸田 博子	〔洋画〕 本山 二郎
6月4日(月)	〔彫刻〕 村井 良樹	〔工芸美術〕 浅蔵 與成 木谷 陽子
6月6日(水)	〔書〕 三藤 観映	〔日本画〕 仁志出龍司 宮下 和司
6月8日(金)	〔洋画〕 児島新太郎	〔彫刻〕 中口 一也
6月9日(土)	〔工芸美術〕 高名秀人光	〔書〕 干場 昇龍
6月11日(月)	〔日本画〕 古澤 洋子 谷口千佳子	〔洋画〕 松下 久信 松田 寧子
6月13日(水)	〔彫刻〕 石田 陽介	〔工芸美術〕 鶴見 保次 中村 基克
6月15日(金)	〔日本画〕 瀧川 眞人 中村 徹	〔洋画〕 青木 良識
6月16日(土)	〔彫刻〕 新澤 博志	〔工芸美術〕 大樋 年雄 石田巳代治

◆観覧料

	当日	前売り	団体
小学生	四〇〇円	三〇〇円	二〇〇円
中学生	七〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
大人	一、〇〇〇円	九〇〇円	八〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

【展覧会事務局】

〒九二〇-八五八八 金沢市南町二番一号

北國新聞社事業局内

改組新第四回日展金沢展事務局

電話：〇七六一二六〇-一三五八一



武腰敏昭 《無鉛釉上絵染付「朝」》



村田省蔵 《秋光》

加州刀と加賀象嵌鎧

5月24日(木)～6月17日(日) 会期中無休

昭和二十年(一九四五)太平洋戦争の終結により、連合国占領軍(GHQ)は日本の武装解除の一環として国内の刀剣類を接収しました。そのうちの多くは海洋投棄され、あるいは海外に流出したと言われていますが、接収された一部が赤羽(現東京都北区)にあったアメリカ第八軍兵器補給廠ほきょうしょうに集められました。二年後の昭和二十二年、当時の刀剣関係者の尽力により、このなかから美術的価値のある刀剣については返還されることになり、上野の国立博物館(現東京国立博物館)に移されました。その数は、約五千五百本余と言われています。

そしてこれらの刀剣類が、接収時の保管場所にちなみ「赤羽刀」と呼ばれています。その後、所有者が判明した一部については返還されましたが、多く

は長く東京国立博物館の収蔵庫に保管されたままでした。しかし終戦五十周年の節目にあたる平成七年(一九九五)、議員立法により「接収刀剣類の処理に関する法律」が成立し、赤羽刀の保管・活用に大きな道が開かれました。文化庁ではこの法を受けて旧所有者が判明したものについては返還し、残りは一且国庫に帰した後、全国の、これら刀剣類のゆかりの地にある公立の美術館・博物館等へ無償譲与し、活用・公開されることになりました。

当館は加州刀を中心に七十口の譲与を受け、平成十一年度から順次研磨に着手しました。本展では、こうしてよみがえった加州古刀・加州新刀にあわせて加賀象嵌鎧を展示し、武器を通底する加賀の美意識を探ってみたいと思います。



県文《刀 銘 越中守藤原高平》

前田家 武の装い I

5月24日(木)～6月17日(日) 会期中無休

加賀藩祖・前田利家が天正十一年(一五八三)年六月十四日、金沢城に入城し、金沢の礎を築いた偉業をしのんで開催される「百万石まつり」にちなんだ展示です。

武将にとって戦時に着用する甲冑や陣羽織は、自身の武勇や教養、美意識をあらわす重要な媒体でした。そこで戦国時代以来、武将たちは甲冑・陣羽織のデザインや材質に強いこだわりを持ち、時には奇抜な形状や斬新な意匠のものが制作されました。加賀藩主・前田家も、文武二道に卓越した家柄として意匠や素材を入念に吟味しました。たとえば、二代藩主・前田利長のトレードマークとも言える《鯰尾形兜》ですが、鉢の上部は和紙に漆を塗り、銀箔を押しています。利長の身長が二メートル近くあったと伝えられていることを考えると、敢えて

「変わり兜」を着用しなくてもこれで十分周囲を威圧する効果があったと思いますが、その利長が鯰尾兜を着用して馬に乗った姿は、まさに威容そのものだったことでしょう。

そして日本史上屈指の文化人大名と言える五代藩主・前田綱紀の《笠形模楯無甲冑》も注目すべき作例です。射撃の名手だった綱紀は、当然銃器による狙撃も想定していたようで、外見から想像する以上に堅牢な構造となっています。そして、綱紀はこの甲冑を着用して、戦場で自在に采配を振る体力があったことも興味深い事実です。

まさに文武二道の体現者として、和漢洋の書物を自在に読みこなし、武芸にも達していたことがここで改めて確認されます。

《黒塗六十二間甲冑 前田利常所用》

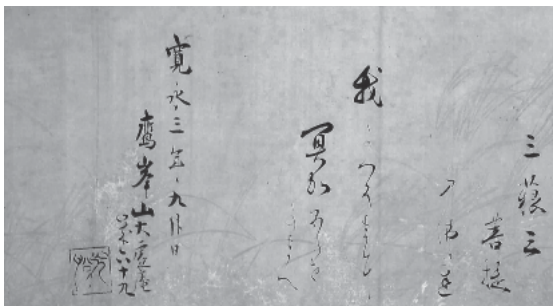
琳派

6月22日(金)～7月23日(月) 会期中無休

二〇一五年は、本阿弥光悦(一五五八～一六三七)が鷹峯の地に移ってから四百年の節目となるとして「琳派四〇〇年」の関連イベントが開催されました。さらに「鷹峯」を冠したフォーラムも昨年当地で開催されましたが、本阿弥光悦が主導した造形運動を語る際には、法華経信仰を避けて通ることはできません。

光悦は熱心な法華宗の信徒でした。法華宗の根本経典である『法華経』「方便品第二」には、子供が戯れに木片などで仏の像を描いたとしても、その人は慈悲ある人となり、幾千万の人々を救済すると説かれています。光悦ら琳派の芸術家たちが制作にあたった原点はこの教えにあるといえます。すなわち、子供の戯れの行為にこれほどの功德が

あるならば、大人が真剣に制作にあたれば、その功德は計り知れないのではないか。この信仰が、今日の人々も魅了してやまない洗練されたデザイン感覚に満ちた琳派様式を生み出したというわけです。今回展示する光悦の《薄木版下絵詩歌》(石川県指定文化財)には、『和漢朗詠集』の詩歌が書かれています。詩歌は仏を讚美する機縁でもあり、それを美しく書くこと、そのために意匠と装飾をつくり出した料紙を用いること。作品をじっくり鑑賞すると、こうした光悦の信仰が伝わってきます。さらに今回は、光悦一族の本業に関わる《刀絵図》(本阿弥光徳筆・重要美術品)も展示します。そして琳派という呼称の由来となった尾形光琳の曾祖母は、光悦の姉にあたることも想起したいと思います。



県文《薄木版下絵詩歌(和漢朗詠集)》本阿弥光悦

前田家 武の装いⅡ

6月22日(金)～7月23日(月) 会期中無休

加賀藩の文化政策は、時に幕府の警戒を和らげる目的があったと解釈されますが、特に五代藩主・前田綱紀の事績や武具を検証すると、そのような見方は一面的であることを改めて痛感します。当館では、一連の展示を通して前田家が推進した文化政策の、戦略的な側面に注目しています。文物収集や美術工芸品と武具制作の水準や芸術的完成度、そして政策全般に発揮される獨創性で幕府を圧倒することが「文化決戦」の眼目と言えますが、加賀藩はさらに直接的な武力による決戦も視野に入れていたことが、今回の展示作品からも垣間見えます。

「アート」は本来技術という意味であったことを考えると、先に終了した特別展「美の力」で明らかにしたように、特に外様大名であった前田家の場

合は、美術・工芸・武具に重層する意味を、総合的に読み解いて行く新たな観点が必要であることを痛感します。一例として陣羽織に注目してみると、前田綱紀が「百工比照」で諸大名が所用した陣羽織の形状や、意匠、色を丹念に調査していた事実が想起されます。おそらく綱紀はこの作業を通して、たとえば○△□などの基本的な意匠化の傾向性を把握しようとしたのではないのでしょうか。綱紀の陣羽織総覧は未完に終わったようですが、その作業が最終的に何を目指していたのかを考えると少し緊張すると同時に、人間の思考を様々な角度から追求してやまなかった姿勢に改めて敬服させられます。もちろん本展では綱紀の陣羽織も展示しています。

《猪目文陣羽織 前田綱紀所用》

優品選・新収蔵品展

6月22日(金)～7月23日(月) 会期中無休

近現代絵画彫刻部門では、第3、第4展示室で優品選を、第6展示室で二十九年度の新収蔵作品をご覧いただきます。まず、日本画では、企画展示室で開催中の『若冲と光瑤』展にちなみ、京都画壇で活躍した画家達の作品を紹介します。橋本閔雪の悟りを得るまでの過程を牛との関係に喩えて示す『拾牛図』と木島櫻谷の『咆吼』、また現代作家では稲本実の『氣』、濱田観の『初夏の花』等です。

油彩部門では季節にちなんだ風景画をご覧いただきます。宮本三郎の『夏山』、田辺栄次郎の『リヨンの丘』、藤本東一良の『コンカルのバルコン』等、夏の季節を実感させる作品です。宮本の『夏山』は制作年が、昭和十年から四十六年までと、長きに渡っています。後年になっても手を加えた作品で

す。作風は三十代の頃のスタイルに後期のタッチを交えた独特のもので、宮本の風景画の中では最大級の作品です。

彫刻部門では、木彫を中心とした作品群にブロンズ作品を交えてご覧いただきます。木彫では、晝間弘の大作『朝』に、石川光明の『犬』、圓鋸勝三の『道化師』、澤田政廣の『笛人』、森野圓象の『蘭陵王』等の小品を展示します。

今年の干支であり、友の会会員カードを飾った石川の『犬』は、二匹の子犬が愛らしく表現され、澤田の『笛人』は、白く彩られた裸女が腰をひねって笛を吹く姿には、奏者の意気込みを感じさせます。木彫の小品ならではの繊細な表現をお楽しみ下さい。



澤田政廣 《笛人》

○△□ 幾何学のデザイン

6月22日(金)～7月23日(月) 会期中無休

今回の近現代工芸部門は作品の意匠に注目し、丸・三角・四角などの幾何学をデザインとした作品を展示します。幾何学模様そのものをデザインとしたもの、幾何学に写実的なモチーフを組み合わせたもの、写実的なテーマを意匠化していくうちに、幾何学の組み合わせが生まれたもの、技術的な工程の過程で幾何学的な模様が生まれたものなど、さまざまな形を作品の中に見ることができます。

木工芸の人間国宝・氷見晃堂の『柘造八稜箱』は、均整の取れた正八角形の箱です。八角の稜線を縁取るように黒柿をあしらい、被せ蓋の甲面縁周りを斜めに削って面取りして、そこに桑と銀の線象嵌でシンプルな幾何学的な模様を配することで、柘・黒柿・桑・銀の素材感が生かされ、形の美しさを

際立たせています。

西出大三は自ら彫った椀の器物に、平安・鎌倉時代の仏教美術に用いられた截金という技法で、当時の文様を再現した装飾を施す作品が評価されました。『截金彩色油色「花の合子」』の装飾は、金箔を細かい菱形や四角、細い線などに切り抜き、抒情的な花や品格のある連続模様を表しています。

堀友三郎の『干網』は、江戸時代の小袖にも用いられた「網干」模様と同様、漁網を干す海辺の風景です。伝統的モチーフを近代の街並みを思わせる図形の構成で、リズムミカルに描く堀の感性が特筆されます。

工芸作品にみる多様な幾何学のデザインをお楽しみください。



氷見晃堂 《柘造八稜箱》

新収蔵となった作品

分野	No	作品名	作者名	員数	制作年	寄附者
書	①	聖一国師墨跡「撃杖」	聖一国師(円爾)	一幅	鎌倉十三世紀	和田 一子
陶磁	②	黒描鳥花文壺	米田 和	一口	平成二十八年	米田 和
陶磁	③	彩果文花瓶	初代松本 佐吉	一口	昭和十二年	石田孝太郎
漆工	④	飛翔	三谷 吾一	一面	昭和四十年	三谷 慎
木工	⑤	木彫鷲図額	村上 九郎作	一点	明治と大正	村上 邦夫
竹工	⑥	竹組四方盆	橋本 仙雪	一点	昭和四十年代	村田 泰恵
竹工	⑦	鳳美竹宝珠花籠	橋本 仙雪	一口	昭和四十年代	村田 泰恵
竹工	⑧	竹蓋置	橋本 仙雪	二個一対	昭和四十年代	村田 泰恵
日本画	⑨	月光譚(新月)	中村 静勇	一面	平成二十三年	山本由美子
日本画	⑩	富士に群鶴図	岸浪 柳溪	八曲一双	明治中期	吉田 健
油彩画	⑪	猫の居る静物	小糸 源太郎	一面	昭和十一年	國分 繁子
油彩画	⑫	春光(絶筆)	小糸 源太郎	一面	昭和五十三年	國分 繁子
素描	⑬	「扇面散時絵手箱」修復図	松田 権六	一卷	昭和十三年	松田 彌生
素描	⑭	「時絵水車図硯箱」修復図	松田 権六	一卷	昭和十三年	松田 彌生
彫塑	⑮	今のワ・タ・シ	梶本 良衛	一点	平成元年	梶本 良衛



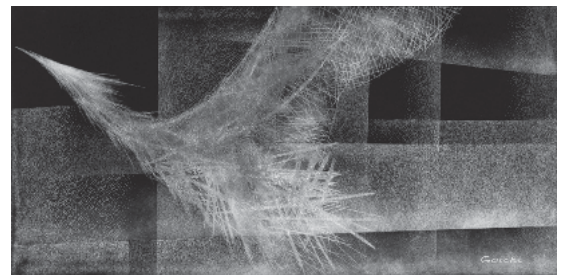
①



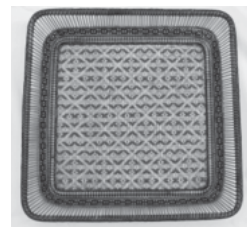
③



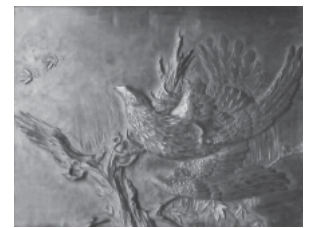
②



④



⑥



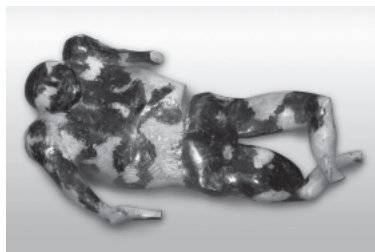
⑤



⑪



⑨



⑮



⑫



⑩左隻



⑩右隻

平成29年度新収蔵点数 15点
収蔵品総計(平成30年3月31日 現在) 3,754点

夏休み体験講座 参加者募集！

【子ども一日学芸員】

美術館やそこで働く学芸員の仕事、作品、また作品の楽しみ方を学びます。

対象…四・五・六年対象

日時…八月八日(水) 九時半～十五時半

定員…親子五組 計十名

参加費…なし

申込方法…往復はがきにて。七月二十七日(金)必着

【制作体験】

夏休み親子で楽しむ美術館の「アートde動物 大集合！」の鑑賞後、テーマに合わせた制作活動等を楽しみます。

◆「動物園deスケッチGO！」

対象…全学年

日時…八月十二日(日) ①十時～十二時 ②十三時～十五時

内容…本多の森公園にやってくる移動動物園で、動物に関するお話聞いたり、動物と触れあったりし、それを生かして、スケッチをします。

定員…各回親子五十名程度

参加費…なし

申込方法…前日十七時までに電話で申込

◆「レッツ！マリオッティ ～手遊び動物園～」

対象…全学年

日時…八月十日(金) 十三時半～十六時

内容…日本の影絵あそびのようにキツネや犬など手で動物の形を表現する造形作家、マリオ・マリオッティさんになつてみよう。色までつけて動物に変身した手は写真撮影します。

定員…親子十五組

参加費…一名三〇〇円程度

申込方法…往復はがきにて。七月二十七日(金)必着

○往復はがきでのお申し込み方法

宛先…〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一

石川県立美術館 キッズ・プログラム宛

往信欄に、参加希望の講座名・参加者全員の氏名・学年・住所・電話番号を記入。

*定員を上回った場合は抽選になります。

6月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分～	美術館講義室	聴講無料
16日(土)	日展と工芸美術			寺川和子
23日(土)	絵画の見方―賛と落款―			中澤菜見子
30日(土)	宗達から若冲へ 仏教的深化の系譜			村瀬博春

お詫びと訂正

前号の美術館だよりに誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

・7ページ下段の平成三十年度 土曜講座(前期)

誤…9月22日 金沢と漆皮

正…9月22日 近代の文化財修復―漆皮を中心に―

《雲崗石仏》うんこうせきぶつ

各縦181.8cm 横72.7cm(4面) 昭和49年(1974) 第39回新制作協会展

脇田 和 わきた・かず

明治41年～平成17年(1908-2005)



脇田和が描いた作品の中で、この雲崗石仏は異色作といえるでしょう。まず、四面で一組という構成、横幅は三メートル近くにも及ぶ大作です。脇田といえ、淡い色彩と線で子供や親子、鳥などを情愛深く描くというイメージがあります。ですが本作は慈悲とともに峻厳とでもいふべき厳しさを感じます。そして、石仏の巨大さがよく表されています。

脇田は少年期にベルリンに留学し、ベルリン国立美術大学で、デッサンと版画を学びました。その頃の裸婦や男の裸体像は、強く鋭い線と輪郭に沿ってほんの少しの陰影で、見事に人体のボリュームを表現しています。ところが、日本に帰ってきてからの油彩作品は、そうした鋭さを隠し、ほのぼのとした傾向に移るのでした。しかし、本作を見るとベルリン時代の強い線が全面に出ていると感ずるのです。

中央の施無畏と願印を結ぶ両仏は座像と立像という違いのみでなく、示す世界観も異なるように思えます。向かって左はほのかな色彩が施され、平安の世界を、右は無彩色で厳しい動的な世界を感じさせます。それは右端のジグザグに描いた石窟壁面の線と石仏の背後の暗く不気味な背景によるものでしょう。

脇田はこの年、昭和四十九年に中国に渡り、雲崗石窟を見て回り、その感動を本作として結実させたのです。

次回の展覧会

6月22日(金)
～7月23日(月)

前田育徳会尊経閣文庫分館

第2 展示室

前田家 武の装いⅡ

琳派

第3・4・6 展示室

第5 展示室

第7～9 展示室

優品選・新収蔵品展
[近現代絵画・彫刻]

○△□
幾何学のデザイン
[近現代工芸]

若冲と光瑤
6月23日(土)～7月22日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(6月は4日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

6月の休館日は
18日(月)～21日(木)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第416号(毎月発行)
2018年6月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>